

歴代志上、下、エズラ記、 ネヘミヤ記、エステル記 結晶の学び

標語

旧約の十二巻の歴史書(ヨシュア記、士師記、ルツ記、サムエル記上と下、列王紀上と下、歴代志上と下、エズラ記、ネヘミヤ記、エステル記)の内在的な意義が啓示しているのは、人類歴史の中の神の行動が、神が人と成り、人が命と性質において(神格においてではなく)神となることによって、神が道を用意してご自身の永遠のエコノミーを完成し、キリストの有機的なからだとしての召会を生み出し、建造し、新エルサレムを究極的に完成して、彼の究極の表現とならせることであるということです。

エズラは天的な真理でイスラエルの民を再構成しました。主の回復の中で、わたしたちは多くのエズラを必要とします。彼らは祭司として教える者であり、神と接触し、神で浸透され、神と一であり、神で満たされ、神の御言に精通している人です。このような人が資格づけられて、回復の中で教える者となります。

わたしたちはキリストによって生き、キリストを生かし出し、こうしてキリストを大きく表現する必要があります。それによってわたしたちは、神の表現としての召会を建造することができます。わたしたちは神を表現するために、言葉の中の水の洗いによって日ごとに聖化され更新されて、わたしたちの花婿であるキリストへとささげられ、彼の純粋で、栄光に満ちた、神を表現する花嫁となる必要があります。

召会をキリストのからだとして建造するためには、霊的戦いが必要です。それは四つの原則にしたがって遂行されます。それは、肉の武器を用いないこと、昇天の地位を保つこと、霊的な武器(力があって、敵の要塞を破壊する)を用いること、祈りが戦いであることを理解して、天の領域で、神の御座から戦いの祈りを発することです。

人類歴史の中の神の行動は

神の永遠のエコノミーを完成するためである

聖書：ゼカリヤ 1:3, 18-21. 2:1-2, 5, 8-9, 11. 6:12-13.

10:1, 3, 8, 12. 11:7. 12:1, 10. 14:5, 9

I. 旧約の十二巻の歴史書(ヨシュア記、士師記、ルツ記、サムエル記上と下、列王紀上と下、歴代志上と下、エズラ記、ネヘミヤ記、エステル記)の内在的な意義が啓示しているのは、人類歴史の中の神の行動が、神が人と成り、人が命と性質において(神格においてではなく)神となることによって、神が道を用意してご自身の永遠のエコノミーを完成し、キリストの有機的なからだとしての召会を生み出し、建造し、新エルサレムを究極的に完成して、彼の究極の表現とならせることであるということです：

A. わたしたちは旧約の十二巻の歴史書を、神の永遠のエコノミーに結び付けなければなりません。聖書は実は、ただ一つの事、神の永遠のエコノミーを告げています。それは神の大いなる喜び、すなわち、神の心の願いに基づいています(エペソ 1:4-5, 9-10. I テモテ 1:3-4. 6:3)。これら十二巻の歴史書が神の神聖な啓示の中で書かれたのは、わたしたちを警告し、照らすためです(I コリント 10:11)。

B. 神の永遠のエコノミーを完成して(彼の法理的な贖いの手続きと彼の有機的な救いの目標をもって)、わたしたちを彼の花嫁として用意を整えて彼の再来をもたらすことは、今日の世界情勢の問題を解決する唯一の道です。これが神の心の願いであり、彼はその事を完成します——ローマ 5:10, 17, 21. I テサロニケ 5:23-24. ピリピ 1:3-6。

C. 主の二度目の来臨はこの世のすべての問題を解決します。それは不正(イザヤ 11:4)、戦争(2:4)、病(啓 22:2. エゼキエル 47:12)、飢きん(イザヤ 35:1, 6)、教育(2:2-5. 4:2-6. 11:9. ハバクク 2:14. ヘブル 8:11. 詩 2:6, 12)、犯罪機構(マタイ 13:41-43)、全被造物の苦しみ(ローマ 8:21-22. イザヤ 11:6, 9)、地上の政権です(啓 11:15. ダニエル 2:34-35, 44-45)。

II. ゼカリヤ書が啓示しているのは、人類歴史の中の神の行動の極めて重要な点と主要な内容が、キリストの二度の来臨であって、それはイエスの証し、神の建造のためであるということです：

A. ゼカリヤ書第 9 章から第 11 章は、キリストの卑しい中での一度目の来臨について語っており、それはへりくだった親密なものでした：

1. キリストは義なる方法で神の民の救いのために王として来ましたが、卑しい王、へりくだった王として来て、威厳ある馬に乗ったのではなく、

ろばに、子ろばにさえ乗りました。これはイエス・キリストが最後の時にエルサレムに入って来たときに成就されました——ゼカリヤ 9:9． マタイ 21:5-10。

2. キリストは嫌われ、攻撃され、拒絶されて、彼の弟子の一人によって銀三十枚、すなわち、奴隷の値で売られました(ゼカリヤ 11:8, 12-13． 出 21:32)。ここで予言されていることは、福音書で成就されました(マタイ 26:14-15． 27:3-10)。
 3. キリスト、エホバの仲間は、神の遣わされた牧者としてイスラエルの子たちに来ました。キリストは人として、イスラエルの子たちの親族であり、またエホバの仲間でした。彼は牧者として打たれ、彼の弟子たちは羊として散らされました——ゼカリヤ 13:6-7． ヨハネ 10:11． マタイ 9:36． 26:31． ヨハネ 16:32-33。
 4. キリストはイスラエルの家において、十字架上で傷つけられましたが、「わたしを愛する者の家で傷つけられたものだ」と言いました。イスラエルの子たちはキリストを殺しましたが、この甘い言葉の中で、キリストは彼らの行動を、彼を愛する者からの傷と認めています——ゼカリヤ 13:6-7． 12:10． 啓 1:7． 詩 22:16。
 5. キリストの脇^{わき}は突き刺されました。そして彼は罪と汚れを清める一つの開かれた源泉となりました——ゼカリヤ 12:10． 13:1． ヨハネ 19:34, 37． マタイ 26:28。
- B. ゼカリヤ書第 12 章から第 14 章は、キリストの勝利における二度目の来臨について語っています。それは力と権威を伴っています：
1. キリストは二度目に、彼の聖徒たち、すなわち、勝利者たちを伴って来ます——14:5． ヨエル 3:11． ユダ 14 節。
 2. 彼の足は、エルサレムの東側の前にあるオリブ山の上に立ちます——ゼカリヤ 14:4． 使徒 1:9-12。
 3. 彼は神の選ばれた民であるイスラエルの子たちのために、彼らを包囲する諸国民と戦い、彼らを破壊から救います——ゼカリヤ 14:2-3, 12-15． 12:1-9。
 4. その時、イスラエルの全家は、自分たちが突き刺した方を仰ぎ見て、彼のために嘆きます。こうして、全イスラエルは救われます——10-14 節。ローマ 11:26。
 5. その後、彼は王となって支配し、諸国民を治めます。すべての民は年ごとにエルサレムに上って来て彼を礼拝し、みな彼へと聖別されます——

ゼカリヤ 9:10. 14:16-21。

6. 「エホバは全地の王となられる。その日には、エホバはただひとり神であって、彼の御名もただ一つの名である」——9 節. 詩 72:8. 啓 11:15。

III. すべてを含むキリストは、人類歴史の中の神の行動の歴史であり、神の現れのために神の建造を得ます——ゼカリヤ 4:9. 6:12-15. マタイ 16:18. ヨハネ 1:1, 14. I コリント 15:45 後半. 啓 4:5. 5:6. 21:2:

A. キリストは巧みに働いて、人類歴史の中の世界情勢を主権をもって制御するとき、神聖な歴史の中でご自身を巧みにわたしたちの中へと造り込んで、わたしたちを彼の働きの傑作、神の詩、神の新しい発明とし、彼の無限の知恵と神聖な設計を表現します——使徒 5:31. エペソ 2:10。

B. キリストは、彼の人性においてエホバの御使い、すなわち三一の神としてのエホバご自身であり、神の民と共に、彼らの屈辱の中で谷の最も低い部分に立って、彼らを顧み、彼らのためにとりなし、彼らを素早くバビロンの捕囚から連れ出します——ゼカリヤ 1:7-17. 出 3:2, 4-6, 13-15. イザヤ 63:9. 申 33:27。

C. キリストは、神に用いられて四つの角^つを砕く最後の職人です。四つの角は四つの王国とその王たちであり(バビロン、メド・ペルシャ、ギリシャ、ローマ帝国)、それらはダニエル書第 2 章 31 節から 33 節の大きな人の像の四つの部分、ヨエル書第 1 章 4 節の四つの段階のいなご、ダニエル書第 7 章 3 節から 8 節の四頭の獣によっても表徴されており、神の選ばれた民を害し、破壊しました——ゼカリヤ 1:18-21:

1. 四人の職人は、神に用いられる技巧であり、これら四つの王国とその王たちを滅ぼします。初めの三つの王国はそれぞれ(バビロン、メド・ペルシャ、ギリシャ)、それに続く王国によって技巧ある方法で取って代わられました——ダニエル第 5 章. 8:3-7。

2. 第四の職人は、人手によらずに切り出された石としてのキリストであり、彼は戻って来るとき、復興されたローマ帝国を砕き、こうして人類の政権の集大成としての大きな人の像を砕きます——2:31-35。

3. この石が表徴するのは、個人のキリストだけでなく、団体的なキリスト、すなわちキリストと彼の「勇士たち」でもあります——ヨエル 3:11。

D. 団体的なキリスト、すなわち、キリストと彼の勝利を得た花嫁は、石として来て、人類の政権の集大成を打ち砕き、神の王国をもたらします——ダニエル 2:34-35. ヨエル 3:11. 啓 19:11-21. 参照、創 1:26。

E. ダニエル書第 2 章は、人手によらずに切り出された一つの石として来るキ

リストについて語っています。啓示録第 19 章は、彼の軍隊としての彼の花嫁を持つ方として来るキリストについて語っています。

IV. エペソ第 5 章と第 6 章は、召会が花嫁また戦士であることを啓示しています。啓示録第 19 章にも、召会のこれら二つの面があります——エペソ 5:25-27 . 6:10-20 . 啓 19:7-9 , 11 , 14 :

A. わたしたちは神聖な歴史の中で、すなわち、人類歴史の中の神の行動の中で花嫁となるために、神の美しくする言葉を必要とします。またわたしたちは神聖な歴史の中で、すなわち、人類歴史の中の神の行動の中で戦士となるために、神の殺す言葉を必要とします——エペソ 5:26 . 6:17-18 . 参照、Ⅱテモテ 3:16 。

B. キリストは彼の婚宴の日に、彼の花嫁と、すなわち、長年神の敵に対して戦ってきた勝利者と結婚します——参照、ダニエル 7:25 . 6:10 . エペソ 6:12 。

C. キリストは地上に下って来て、反キリストと人類の政権の総合計を対処する前に、婚宴を持ち、彼の勝利者たちを彼ご自身に結合させて一つの実体となさせます——啓 19:7-9 。

D. こういうわけで、その霊としてのキリスト、すなわち、手順を経て究極的に完成された三一の神は、花嫁としての召会、すなわち、手順を経て造り変えられた三部分から成る人と結婚します——啓 22:17 前半。

E. 彼は婚宴の後、彼の結婚したばかりの花嫁と共にやって来て、反キリストを滅ぼします。この反キリストは彼の軍隊と共に、直接、神と戦います——啓 19:11 , 14 :

1. 主イエス、すなわち、神の言は、彼の口の息によって反キリスト、すなわち不法の者を殺します。また彼はご自身の来臨の出現によって、反キリストを無にもたらしめます——11-15 節 . Ⅱテサロニケ 2:2-8 。

2. キリストの口からは鋭い剣が突き出ており、彼はそれをもって諸国民を打ちます——啓 19:15 . 1:16 . 2:12 , 16 。

F. 人類の政権を打ち砕いた後、神は全宇宙を一掃します。その後、団体的なキリスト、すなわちキリストと彼の勝利者たちは、大きな山となって、全地を満たし、全地を神の王国とします——ダニエル 2:35 , 44 . 7:22 , 27 . 啓 11:15 。

V. 人類歴史の中の神の行動を完成して神の永遠のエコノミーを完成する道は、わたしたちの霊を活用して、キリストを七倍に強化された霊として経験し、享受することです——啓 1:10 . 4:2 . 17:3 . 21:10 . 4:5 . 5:6 . ゼカリヤ 3:9 。

4:10 :

- A. ゼカリヤ書第1章3節は言います、「わたしに帰れ、万軍のエホバは告げられる。そうすれば、わたしはあなたがたに帰ると、万軍のエホバは言われる」。わたしたちは霊を活用し、心を尽くして主に帰る必要があります。このことは、わたしたちがまず主に帰らなければならず、それから主がわたしたちに帰るという原則を確立します——エレミヤ 24:7. ホセア 6:1-3. 14:1-5. ヨエル 2:13. ルカ 15:17-24。
- B. ゼカリヤ書第12章1節は言います、「イスラエルについてのエホバの言葉の託宣。天を延べ、地の基を据え、人の霊をその中に形づくられたエホバはこう告げられる」:
1. 神は彼の創造において、三つのかぎとなる、等しく重要な項目を造りました。それは天、地、人の霊です。
 2. 天は地のためであり、地は人のためであり、人は神によって霊のあるものに創造されました。それは人が神と接触し、神を受け入れ、神を礼拝し、神を生き、神のために神の定められた御旨を完成し、神と一となるためです——1節。
 3. 人の存在の中央政府であり最も重要な部分は彼の霊であるべきです。自分の霊によって支配され統治されている人は霊の人です——Iコリント 2:14-15. 3:1. 14:32. ヨハネ 3:6. エペソ 3:16. Iペテロ 3:4. ダニエル 6:3, 10。
 4. ゼカリヤ書は、わたしたちの人の霊に完全な注意を払うようわたしたちに命じています。それは、わたしたちがこの書に啓示されているキリストを受け入れ、彼に関してその中に啓示されているすべてのことを理解するためです——創 2:7. ヨハネ 4:24. ピリピ 4:23。
- C. わたしたちは以下の各面において、キリストを七倍に強化された霊として享受する必要があります:
1. キリストは彼の手には測り縄を持つ人であり、神の民を測ります。それは、彼の王国のために彼らをテストし、裁き、試験し、所有するためです——ゼカリヤ 2:1-2. エゼキエル 40:3. 47:1-5. 詩 139:23-24。
 2. 「わたしはそれを取り巻く火の城壁となると、エホバは告げられる。わたしはその中で栄光となる」——ゼカリヤ 2:5:
 - a. エルサレムの都の城壁とその中の栄光は、エホバご自身です。これはキリストとしてのエホバがエルサレムの周囲の保護となり、エルサレムの中心の栄光となることを示します。これはキリストが神のエコノ

ミーの中心性と普遍性であることを見せています。

- b. 今日キリストは召会の中心の栄光であり、彼はまた保護のために召会の周囲で燃える火です。新エルサレムで、キリストにある三一の神はその中心の栄光であり(啓 21:23. 22:1, 5)、この栄光は都の透明な城壁を通して輝き、その保護の火となります(21:11, 18 前半, 24)。
 3. キリストは万軍のエホバに遣わされた方であり、また遣わす方、万軍のエホバでもあって、彼の民を顧みます。彼の民は彼にとってとても尊く、彼らに触れる者はだれでも、彼の目の瞳に触れるのです——ゼカリヤ 2:8-9, 11. 参照、ヨハネ 14:26. 15:26。
 4. キリストは牧者として来て、二本の杖で羊の群れを牧養しました。一本は恩恵(恵み)と呼ばれ、他の一本は結び(結ぶこと)と呼ばれました。恵みは、わたしたちが神とミングリングされるためであり、結ぶことは、わたしたちが結ばれて一となるためです——ゼカリヤ 11:7. 2:1-2, 5, 8-9, 11. ヨハネ 21:15-17:
 - a. 主がわたしたちに対してとても恵み深いとき、わたしたちは彼に、さらに恩恵を、さらに恵みを、さらに「雨」をわたしたちに遣わしてくださるようにと求めるべきです——ゼカリヤ 10:1. 12:10. エゼキエル 34:26。
 - b. 牧者としての主によって訪れられた後、神の民の間のあらゆる弱い羊は威厳のある馬となります——ゼカリヤ 10:3. 参照、9:13, 16. ダニエル 11:32 後半。
 - c. しばしばわたしたちの朝の復興の時、主はわたしたちに口笛を吹いて、わたしたちを召し、彼に集めます。主の口笛はけたたましいものではなく、温和で柔和で、鳥の歌のようなものです——ゼカリヤ 10:8。
 - d. 主はわたしたちをご自身の中で増強して、わたしたちが彼の御名にあって行き巡るようになります——12 節. コロサイ 3:17。
- VI. 人類歴史の中の神の行動(神聖な歴史)の中には新創造があります。それは新しい人であり、新しい心、新しい霊、新しい命、新しい性質、新しい歴史、新しい終結を持っています。主を賛美します。わたしたちは神聖な歴史の中で、奥義的で神聖な事柄を経験し、享受しています。それはわたしたちの有機的な救いのためであり、それによってわたしたちは用意を整えて、勝利を得た彼の花嫁となって、彼の再来をもたらすことができます——詩歌、11 番. ローマ 5:10, 17-18, 21. 6:4. エゼキエル 36:26. II コリント 3:16-18. マタイ 5:8. テトス 3:5. エペソ 5:26-27. 6:17-18. 啓 19:7. マタイ 24:44. 25:10。